

城里町の文化財さんぽ(二五)

町指定文化財(彫刻)

「神像」

指定年月日／昭和五十七年二月一九日
所在地／城里町小坂 管理・所有者／小坂神社



▲町指定文化財「神像」

町指定文化財「神像」は、袍を着し、巾子冠をかぶり、笏を持って座る高さ四〇センチほどの、木造の男神像です。

像の底部には、「文明十一年乙亥卯月三日大夫三郎□」の墨書銘が残されています。この銘文から、応仁の乱が終息して間もない一四七九年に、大夫三郎なる人物によって制作されたことが分かり、県内最古の在銘神像とされています。

「神像」を安置する小坂神社は、大同元(八〇六)年創建の古社で、元は「笠宮社(笠宮明神)」と呼ばれていましたが、明治四年の一郷一社制により、同じく小坂



▲小坂神社

の「飯宮社(飯野宮明神)」と、上小坂の「熊野権現社」を合祀し、明治七年に現在の社名となりました。「神像」は、もとは飯宮社の御神体であったとされています。現在、神像は非公開ですが、鬱蒼とした杜の中の小坂神社境内には、元県指定天然記念物で県内随一の松の巨木ともいわれながら、昭和四八年に虫害により枯死した「笠懸の松」の巨大な切株が残り、住時の威容を物語っています。

解説文／町文化財保護審議会会長小山映一
写真／「常北の文化(一一号)」から転載

問合せ 教育委員会事務局

☎ 029-288-3135

俳句

病む友の見やすき高さ金魚玉 仲田 まちゑ
汗拭ふたびに札所の近くなり 鯉淵 寿美恵
登り来し寺の掛茶屋釣忍 綿引 英子
七夕や宇宙飛行士夢みる子 今瀬 多代美
点々と牧場の牛野菊晴 瀬谷 博子

短冊の文字のなつかし星祭

飯村 昭子
初夏の風響くオカリナ美少年 森 静江
ニメートル越へる箱紐さくらんぼ 竹内 幸子
デイ仲間短冊均す今年竹 岩下 金司
勢ひの男盛りの夏の雨 田口 勝元
独り居のひとりに馴れて仰ぐ虹 寺門 孝子

川柳

まとめつけ当てにならない日記帳 富田 多蔵
ミミズ君早く逃げなよ草刈機 飯村 孝一

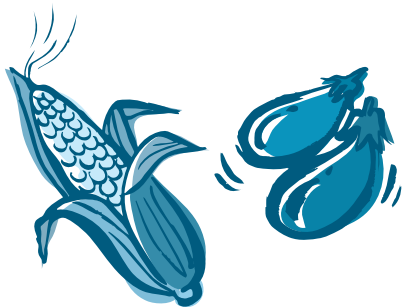
文芸しろさと

短歌

初夏の陽に輝き増せり純白の孔雀サボテンさ庭の女王 青柳 京子
りゅうのひげ霜におわれ朝の陽にキラキラキラキラキラキラ 所 美恵子
さわさわと夏風になびく早苗田の細道ゆっくり黒猫あゆむ 山形 式妙
缶ビールコップに半分注がれて遊び心が笑まひて飲みぬ 杉山 みちこ
散り敷ける沙羅の花殻掃きてをり花のいのちの重さ思ひつつ 渡辺 千紗子

鮎躍る水無月の雨柔らかし 太公望は那珂川に集ふ

大森 久子
齢かさね「光陰矢の如し」実感す今年も半ば今日半夏生 枝 不美
あえぎつつ急な坂道のぼりくれば沈む夕陽は青田を染めて 島 愛子
頂きし造花なれども美しく部屋にかざれば心みたさる 坪井 きよ子
ありがとう貴重な体験してまずとオーストラリアより孫の便り来 萩谷 登喜子
今ごろは大江湿原埋めつくしキスゲ咲くらむ涼風の中 富田 佐智子



山間の青田にそうて乱舞する蛍と出会い嬉しく眺む 蘭部 光子
傘寿の日空を眺めつ時過ぎる米寿を願う穏やかな日々 富田 欽子

